

京都市小学校PTA連絡協議会と京都市教育委員会との教育懇談会 結果まとめ

(令和3年12月3日実施)

本教育懇談会を開催するにあたり、現在の京都市の教育について聞きたいこと、その他、子どもを取り巻く教育問題、教育環境等について、各校PTA会長の皆様を対象に Web アンケートを実施しました。今年度は、その結果から教育向上委員会にて質問を厳選し、事前に担当課からの回答を理事会にて共有し、意見交換をした上で、当日に臨みました。

以下に、担当課からの事前回答に当日のフリートークの内容を加え、「Q&A」形式で結果をまとめています。

1 教員の人材確保、必要な人員の採用・拡充について

①教員の資質向上(優秀な人材の確保)について

教員の資質向上を図るためには、教員志望者の増加を図り、優秀な人材を確保する必要があると思います。京都市では現在、どのような取組が行われているのでしょうか。

【採用試験受験者を増やす】

優秀な人材を確保するためには、教職を希望する人を増やす必要があります。教員の多忙化が焦点化した昨今のネガティブキャンペーンが、教職を志す学生の心理にどのように影響しているのかが非常に心配ですが、教職を諦める人が出ないように、教育委員会として、教職の魅力を発信していかないといけないと考えています。

コロナ禍により、大学を訪問して、学生に京都市の採用試験について説明する機会が減ってしまったため、YouTube に動画を9本アップしたところ、約1万回の再生がありました。また、並行して始めたのが、公式 LINE アカウントの開設です。現在 950 人が登録。こちらもさらに取組を進めていきたいと考えています。

【採用試験受験者の質を高める】

京都教師塾では、教師を目指す方を対象に現職の教員が実践的な講義を行うなど、約9か月程度の講座を実施しています。京都教師塾出身者は京都市内外を問わず、教員採用試験への合格率が高いことから、優秀な人材を確保するためにも、ぜひ京都教師塾で力を付けてほしいと思います。



「京都教師塾」とは



【教員の年齢構成のバランスを図る】

ここ数年定年退職者が多く、多くの先生を採用する必要が生じています。そのため、現場には若い先生の割合が多く、年齢構成のバランスがあまり良いとは言えません。本市では、何とか年齢を平準化したいと思っており、今年度から採用試験の年齢制限を取り払うことにしました。今年度の採用年齢は平均28歳。様々な社会経験をもつ教員が今まで以上に採用できたと考えています。

【働き方改革を推し進める】

教員の魅力を高めるためには、働き方改革の取組は喫緊の課題です。本市では、令和6年度までに残業時間を月45時間にすることを目標にしています。また新しい職として校務支援員ができ、今年度は京都市の予算で全校に配置することができました。校務支援員は先生の業務を減らすうえで、大きな成果があると現場から声をいただいています。

②不登校・教室に入れない児童の増加

より相談しやすい環境をつくるために、スクールカウンセラーの勤務時間数（相談回数）を増やしたり、スクールソーシャルワーカーを全校配置したりするなど、ご予定はありますでしょうか。

【スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置を充実させる】

スクールカウンセラーは、平成27年度にすべての小・中・高・総合支援学校への配置を完了し、令和2年度には目標とする全校280時間（小規模校を除く）を完了しました。スクールソーシャルワーカーについては、令和2年度には全中学校区で配置を完了しています。いずれも十分に配置できたとは考えてはいませんが、勤務時間数や配置を増やしていく件については、まずは活用状況をしっかりと把握したうえで、厳しい財政状況の中ではありますが、引き続き努力してまいりたいと考えています。



「SC（スクールカウンセラー）」とは…

子どもたちの心理相談等に関して高度に専門的な知識・経験を有する者を「スクールカウンセラー」として配置しています。



「SSW（スクールソーシャルワーカー）」とは…

社会福祉等の専門的な知識や技術を用いて、児童生徒の置かれた様々な環境に働きかけて支援を行う者を「スクールソーシャルワーカー」として配置しています。

③支援の必要な児童の増加

支援の必要な児童が増えてきていると言われていますが、それに対しどのような取組をされているのでしょうか。総合育成支援員の増員などが必要と思うのですが、いかがでしょうか。

【支援の必要な児童への取組を充実させる】

育成学級や通級指導に通う児童数は年々増えてきています。本市では幼稚園や保育園から就学支援シートを書いてもらい、保護者に就学前から校長と相談していただきながら、支援の必要な児童を早期に把握し、適切な就学を行うことができるようにしています。小学校に入ってから、必要に応じてLD等通級指導教室を進めています。今年度の設置校は、74校から79校へと、小学校で5校増加しました。これは全国的にも充実した状況です。ニーズは増えているので、今後とも増やしていきたいと考えています。

総合育成支援員は全校に週20時間で配置しています。さらに特別に支援が必要な学校には、追加の配置をしています。

また、人的な配置だけでなく、教員が適切に支援できるような体制が必要であり、研修データをオン

デマンドで配信するなど、教員の資質向上にも努めています。



「LD 等通級指導教室」とは



「総合育成支援員」とは



④休んだ教員分の補充人員の不足

産休やお休みになられたときに、代わりの先生がおられず、教務の先生や教頭先生が走り回っている学校があると聞きます。教育委員会で、今まで以上に臨時的に雇える先生を確保していただくことはできないでしょうか。

【補充人員の不足には苦戦している】

お休みになられた方の補充については、年度途中になると補充に充てる人材がなかなか見つからず、苦戦しています。産休で少なくとも夏休みまでに休まれることが分かっている場合には、年度途中からではなく、4月1日から補充を入れるようにする対応をここ2年ほど続けています。

しかし、急なご病気や退職への対応については、苦戦しているところです。学校の先生の数に対して、国が出すお金が決まっており、休まれることを見越して年度当初に多く人を抱えてしまうと、収支のバランスが崩れてしまいます。お近くの方で「講師をやってもいいよ」というお声がありましたら、ぜひご紹介いただけますとありがたいです。

⑤学級担任の多忙化

教科担任制に伴い、複数の教員による組織的な指導の実施や学級担任の持ち時間数の軽減による働き方改革を目指すとのことですが、他にもメリットがありましたら教えてください。

【教科担任制を推し進める】

国で言われているのは、一部教科担任であり、中学校のように全教科ではありません。メリットは5点挙げられています。

- ①色々な先生が関わることで多面的な児童理解が深まる。
- ②授業の準備時間が減る。
- ③小学校は授業が1回きりだが、教科担任は同じ授業を何回もできるのでブラッシュアップが可能。
- ④担任の空き時間の確保。
- ⑤段階的に円滑な中学校への接続。

実際、高学年においては、子どもの思春期、反抗期が早まっており、同じ先生が同じ児童にずっと関わることは、双方にとってしんどいというケースもみられます。

どの教科を教科担任制とするかについては、国は、算数・理科・外国語・体育が有効ではないかと例示されています。当然、一番良いのは人が増えることなのですが、残念ながら教員の数は国に従うほかありません。PTAのお力を借りながら引き続き要望していきたいと考えています。

2 GIGA端末の利活用と家庭の役割について

①GIGA 端末の利活用の方法や考え方を知りたい。

I C T利活用が世界から後塵を拝している状況において、教育 I C T先進国の利活用の方法や考え方を知りたいのですが、教育委員会ではどこかの国をモデルにされておられますか。

【ICT 利活用を押し進める】

どこかの国をモデルにということではなく、先進的な事例を参考にして、GIGA 端末や高速大容量のネットワーク整備を行っています。国の方針に則り、本市の高い教育実践に最先端の ICT のベストミックスを図り、子どもたちの力を最大限に引き出すことを目指しています。当初は5か年計画でしたが、コロナの一斉休校により、急ピッチで整備することになりました。

本市では管理職向けの研修動画、各種ソフトの活用研修動画、児童生徒向けの分かりやすい操作研修動画、保護者向けリーフレットなど、ICT 利活用の推進に取り組んでいるところです。各校では ICT 推進チームで積極的に研修を進めていただいています。

②GIGA端末での家庭学習の状況を保護者が把握できていない、内容についていけない。

保護者としても、G I G A 端末の利活用を進めていくことは賛成なのですが、宿題で何をしているのか、またどんなソフトを使っているのかが把握できず、質問をされても答えることができません。保護者はどのようにサポートしていけばよいか、アドバイスをお願いします。

【指導面は学校で行う】

家庭での扱いについては、デジタルドリルを通じた問題演習、Microsoft365 の Teams、ロイロノート、授業支援ソフトを通じた課題作成であるとか、調べ学習が多いと聞いています。教育ソフトの内容や使用方法については、授業の中で習熟させたいうえで、家庭で取り組むこととなっているので、操作面でつまづくケースは少ないのではないかと思います。指導面は学校が対応すべきものですので、担任にお伝えいただくとありがたいです。

ご家庭では、GIGA 端末の話題を共有していただき、ぜひ関心をもっていただき、子どもをほめていただきたいと思います。子どもがより一層頑張ろうという気持ちになれば、親子の会話、つながりが広がるのではないかと思います。また、京都市 P T A しんぶんの紙面でも周知いただいているように、「個人情報インターネット上にアップしない」、「人を傷つけるような書き込みはしない」などの注意喚起を行っています。ご家庭でも可能な限り子どもの使用を見守っていただければと思います。



京都市の「GIGA スクール構想」とは



小 P 連全市研修会（令和 4 年 2 月 17 日～4 月 28 日まで動画配信中）

「教えて！GIGA スクール構想」～保護者が支援できること 注意すべきこと～



3 質疑応答(フリートーク)

【1 教員の人材確保、必要な人員の採用・拡充について】に関する Q&A

Q.京都市が教員の確保に努力されていることは理解したが、感覚として教員が足りない、なぜ教員が足りないのだらうと思ってしまうのですが。

A.足りないと感じられておられるのは、当初の教員枠が埋まっていないということではなく、休んだ先生が入らない、不登校や支援の必要な児童への対応など様々なニーズに対して先生が足りないというところではないかと思います。京都市としましては、毎年、国の予算を取りに行っている状況です。もちろんニーズに制度が追いついていないことについては、認識しています。

Q.先生が忙しいのであれば、何か策はないのでしょうか。中途退職が多いのは学校だけでなく企業も同じ。何か手立てはされているのでしょうか。

A.先生一人に対する子どもの数は少なくなってきていますが、それでも先生は忙しいです。正規、常勤の数は全国同じ基準で決められています。現在京都市単独で実施できているのは、中3年生を30人学級にしていることです。これは何とか守り切りたいと思っています。

先生の負担軽減で一番力を入れてきたのは、ICT化です。負担が減った先生がいる一方で、システム化が進むと忙しくなる先生も出てきます。学校の事務負担を減らしたいと考えているところですが、まだまだ減らし切れていないのが現状です。

Q.採用内定者それぞれに志望動機があると思いますが、お給料の話はありましたか。財政難でお金がないなら、京都市は避けようという話にはなりませんか。

A.財政難が採用に対してマイナスに働くことを危惧しています。教員、公務員の給与は、民間の平均との比較で決まっていますので、面接で給料についての話は聞いたことはありませんが、教員の待遇改善は必要と感じていますので、国にも要望してきているところです。

Q.先生になりたい方があるのに、中には辞めていかれる方もおられます。新規採用の方は指導がつくのに、講師にはつかないのはなぜでしょうか。若い先生には負担やしんどいことがあると思います。

A.国で1年目には指導教員をつけるという制度になっているのですが、新しく講師になった方をサポートする制度は国にはありません。講師を対象とした研修を行っており、今後も講師のサポートは留意していきたいと思っています。

【2 GIGA端末の利活用と家庭の役割について】に関する Q&A

Q.GIGA スクール構想には期待も不安もあると思いますが、発達障害も含めてすごく有効なツールと思っています。将来的に子どもがどのように育っていくのか。チームで、地域で支えられ、最終的に社会に出て困らない子どもに育てて欲しいと思いますが、どう絡めていけますか。

A.特に言われていることが「個別最適な学び」と「協働的な学び」です。自分で撮影、録画したり、考えをまとめてプレゼンしたりするなど、これから必要とされる力を小学生のうちから身に付けるとともに、地域の方々との出会いや直接的なコミュニケーションを大切にしてきたこれまでの京都市の優れた教育実践をミックスしていきたいと思っています。

Q.GIGA 端末が入って生活が変わりました。4年生の息子がいて、リコーダーを映像に撮って送るという課題があったのですが、体育の縄跳び等にも使えたら体力の向上にもつながるのではないかと思います。一方、先生方の確認作業が大変になるのでは……。GIGA 端末で負担は増えていませんか。

A.リコーダーを動画で撮る課題はおもしろいと思います。確認する教員は大変だと思われませんが、課題内容によっては一齐にチェックできる利点もあり、内容によっては時間短縮が可能だと思います。紙のドリルも大切ですので、併用してやっていきたいです。教員にも得意不得意がありますので、研修をしてより有効に使用していきたいと考えています。

【その他① いじめ】に関する Q&A

Q.京都市としては、「学校でいじめが起きるのは問題である。だからなるべく無いのが良い。」という考え方なのか、それとも「学校でいじめが起きるのは当然である。だからなるべく早期発見をして小さな内に対処していく。」という考え方なのか、どのような姿勢かをお聞かせ下さい。

A.我々は「いじめを見つけてください」の姿勢で関わっています。「いじめ見逃しゼロ」の学校を作ろうとお願いしているところです。いじめ件数の増加は、むしろ丁寧に対応してもらっていると考えています。「どんどん見つけて解決してください」という姿勢です。

→回答を受けての小P意見：いじめ撲滅の考え方があるが、私もそうは思いません。不登校も含めて「教室入らんでもいいよ」と回避できる環境があればよいと思います。GIGA や ICT で補っていきける部分もあると思います。

Q.子どもたちの悩みに対し、電話やメール等の相談窓口が用意されていますが、その発信のためのツールが手元にない場合があります。ICT でいじめの SOS を発信できる仕組みがあればよいのではないのでしょうか。

A.GIGA に限らず、子ども相談 24 時間ホットラインを設けており、専門の相談員が常駐しています。特にいじめの問題は子どもにとって大きいものです。いじめメール相談も受け付けています。貴重なご意見ありがとうございます。

Q.具体的にホットラインやメール相談を通していじめを解決できたことはありましたか。

A.場合によっては、我々も入って解決に向かうことがあります。

Q.いじめがなくなった段階で解決としていますか。

A.すぐには解決したとはしていません。事案があって3か月、両者の関係を見たり、大丈夫かを確認したりして解決に向かう様子を見守っています。

【その他② 食物アレルギー】に関する Q&A

Q.子どもに牛乳、小麦、ナッツ類の食物アレルギーがあるのですが、給食で除去の品目を増やすことはできませんか。

A.以前は個々の学校で対応していましたが、現在は全市共通で卵除去だけで進めています。食物アレルギーが増えていることは認識していますが、全市で他の品目への対応を進める方向には今のところなっていません。